

序文

本シンポジウム「暮らしと自然と文化的景観」は、金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センターの主催により開催された。金沢および能登の文化的景観をテーマに海外で活躍する若手研究者を招聘し、国内からも研究者および実践者にお越しいただいた。「景観」、特に「文化的景観」というテーマは、主題にあるように人の生活やその歴史と地域の自然が紡ぎ出す風景を考えなければならず、多分野からの視点を集めて議論を進めなければならないとの意図のもと、多くの研究者・実践者からの発表および議論の場が実現した。また、「景観」を議論する際に、登壇者に実際に場所を訪れ、経験を共有するために、シンポジウム前の2日間でエクスカージョンを実施した。風景の背景にある地域の文化や自然、そこで活動する方々の思いに触れたことでシンポジウムの内容はより深いものになった。このエクスカージョンは多くの関係者の方々の協力のもと実現したものであり、ご協力いただいた皆さまには深く感謝したい。

シンポジウムでは、金沢・能登の景観について、その維持／発展における問題は世界的な課題との共通点をもつことが分かり、シンポジウムで挙げられた「生物文化多様性」や「SDGs」、「エコロジカル・デモクラシー」の概念や理念は持続的な地域の発展に欠くことのできない考えであると思う。自然と文化に思いを巡らし、私たちが生活する空間の在り方、それらを市民が享受できる地域を創るためのアイデアがいくつも挙げられた。本シンポジウムが、これらの実現のために必要な政策、具体的な計画を推し進めるための第一歩になることを期待したい。

なお、本シンポジウムは、日本学術振興会学術システム研究センターによる委託研究「人文学分野に関する学術研究動向および学術振興方策：西洋史学ならびに人文学的地域研究における新たな潮流と展開」（研究代表者：金沢大学 野村真理）の一部として開催されたものである。

金沢大学 人間科学系 人間社会学域
助教 丸谷耕太

国際シンポジウム「暮らしと自然と文化的景観」報告

全体スケジュール：2017年8月25-27日

8月25日（金） エクスカーション：能登視察

8月26日（土） エクスカーション：金沢視察

8月27日（日） 国際シンポジウム

シンポジウム開催概要

日時：8月27日（日）9:30～16:15（9:00開場）

場所：金沢市文化ホール3階 大会議室（金沢市高岡町15番1号）

開催趣旨：

金沢は人口46万人の中核市でありながら、自然と文化に恵まれた都市です。金沢やその近郊へ国内外からの多くの観光客が集まるようになった昨今の状況を踏まえ、生物多様性と文化多様性のつながりを考えながら「文化的景観」をキーワードに人の生活と自然の営みが両立できる持続的な都市の未来を考えたいと思います。世界農業遺産にも指定され、里山里海に代表される豊かな自然を保全活用する能登での取組みや、創造都市として継承してきた文化を味解する金沢での取組みなど、現在でも関連する活動は数多く展開されています。今回のシンポジウムでは、研究者の研究報告や活動している方の実践報告とともに、金沢や能登における視察を踏まえた多角的な視点からの議論を行い、人や自然の営みや活動と風土を表象する「文化的景観」として地域の価値を再評価したいと思います。そして、今後の都市のあり方や支援に必要な指針あるいは施策、そして学際的なアプローチが果たしうる役割を考えます。

主催：金沢大学 地域政策研究センター

共催：国連大学サステイナビリティ高等研究所

いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

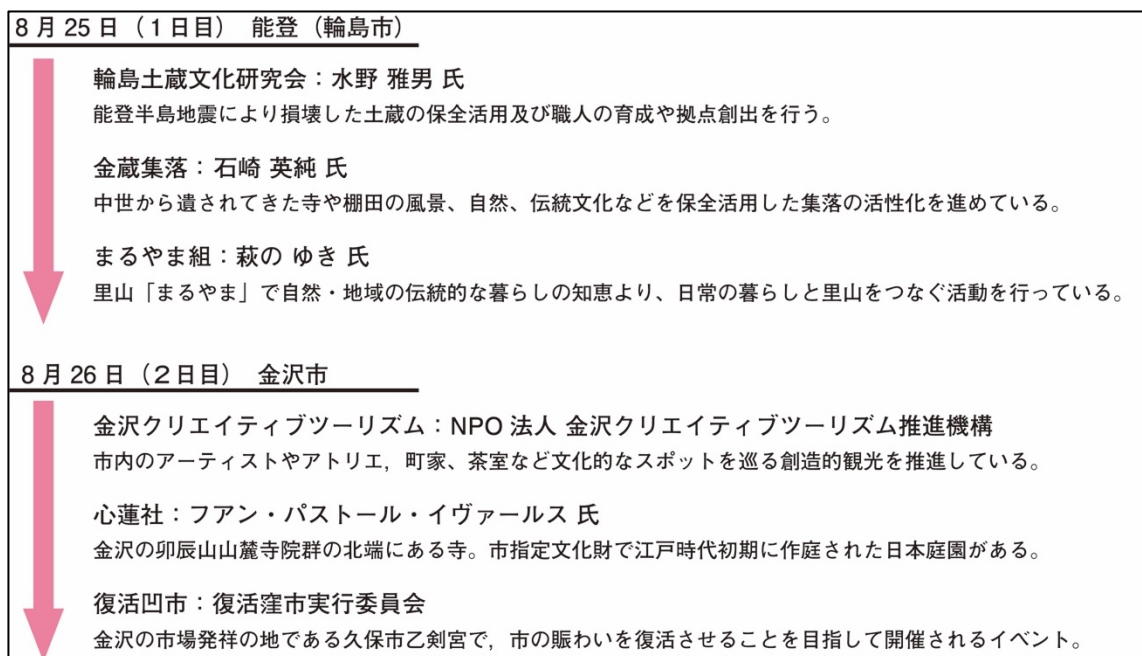
エコロジカル・デモクラシー財団

金沢大学 能登里山里海研究部門（珠洲市）

1. エクスカーション

1. 1. エクスカーションの行程と内容

8月27日（日）のシンポジウムに先駆けて、シンポジウムの登壇者を中心メンバーとして、25日と26日の2日間に金沢・能登の視察を行った。今回企画したシンポジウムは文化的景観をテーマにしている。そのため、事前に金沢や能登の文化や自然、そして広がる風景について経験を共有し、話し合いを行うことで、シンポジウムの内容を充実させることを目的としてエクスカーションを実施した。エクスカーションにおける訪問先は図1の通りである。



【図1：エクスカーションの訪問先】

25日は能登の輪島市を訪れた。はじめに土蔵の保全活用の現場を視察し、「輪島土蔵文化研究会」の取り組みや現在の課題等について話を伺った。次に、金蔵集落へ移動した。当日の朝に集落でとれた食材を用いた弁当を頂き、お寺や水田が並ぶ集落を散策した後に、集落の活性化に取り組むNPO〇〇の活動、地元で活動している生物調査について話を聞いた。最後に、輪島市三井にある里山「まるやま」を舞台に活動を行っている「まるやま組」を訪れた。ここでは、自然・地域の伝統的な暮らしの知恵により日常の暮らしと里山をつなぐ活動を紹介して頂き、文化や自然を理解するためにデザインされたツール、商品を見せてもらった。

26日は金沢市内を視察した。はじめに、NPOにより実施されている「金沢クリエイティブツーリズム」のツアーに参加した。このツアーでは、土蔵や銀行を改修したギャラリー、ア

ートをテーマにしたゲストハウス、九谷焼作家の自邸兼アトリエなどを歩いてめぐり、作家やオーナーから制作の内容や金沢で活動する理由や街に対する思いを伺った。次に、卯辰山山麓の寺院群に立地する「心蓮社」を訪れた。「心蓮社」は市指定文化財にもなっている日本庭園があり、国連大学金沢・石川サステイナブルユニット（OUIK）が中心となって、この場所で生物文化多様性を学ぶワークショップが開催されている。庭を見ながら昼食をとり、住職と OUIK のファン氏から寺の歴史、庭の特徴についての説明を受け、人の生活と自然について議論を行った。最後に、金沢の久保市乙剣宮で行われていたイベント「復活凹市」を訪れた。この場所は金沢における市場発祥の地ともされ、地元の商店と NPO 趣都金澤による実行委員によって、地域の賑わいを取り戻すためにお祭りが開催されている。

1. 2. エクスカーションのまとめ

前述の2日間のエクスカーションでは、文化と自然をともに考えながら新たな風景をつくる活動としていくつかを視察した。視察中は、財団法人エコロジカル・デモクラシー財団および東京工業大学の学生の協力のもと、文化-自然-ランドスケープの連環をより意識し、思考を巡らせるための道具として「エコデモ発見シート」というツールを用いて行った。下記のシートを各人が手にし、視察先ごとに気づいたことや感じたこと、説明を受けて分かったことなどを文化多様性・ランドスケープ・生物多様性の欄に記入し、そこに存在する連環を考えた。これらの結果を視察先ごとにまとめ、27日に開催されたシンポジウムのディスカッション時に、エクスカーションのまとめとして提示した。

□ 8月25日（金）：1日目の様子

■ 輪島土蔵文化研究会





■ 金蔵集落



■ まるやま組



□ 8月26日(土): 2日目の様子

■ 金沢クリエイティブツーリズム



■ 心蓮社



■ 復活凹市 (ふっかつくぼいち)

